


凡 例


一、以下の原稿は各木簡出土地の調査機関に依頼して、執筆していただいたものであるが、体裁および釈文の記載形式については編集担当の責任において調整した。

一、原稿の配列順序はほぼ奈良時代の五畿七道の順序に準じた。


一、釈文下段のアラビア数字は木簡の長さ・幅・厚さを示す（単位はミリメートル）。欠損している部分の法量は括弧つきで示した。その下の三桁の数字は形式番号を示す。またそれぞれの調査機関での木簡の通し番号は最下段に示した。


一、釈文に加えた符号は次の通りである。（八頁第二図参照）


「」 木簡の上端ならびに下端が原形をとどめていることを示す。


＜＞ 木簡の上端・下端に切り込みのあることを示す。

くく 抹消した字画のあきらかな場合に限り原字の左傍に付した。

 抹消により判読困難なもの。

 欠損文字のうち字数の確認できるもの。

 欠損文字のうち字数が推定できるもの。


 欠損文字のうち字数の数えられないもの。

× 木簡が折損していて文字が失われている。

「」 異筆、追筆。

「」 合点。

・ 木簡の表裏に文字のある場合、その区別を示す。

「」 校訂に関する注で、原則として釈文の右傍に付し、

本文に置き換えるべき文字を含む場合。

カ 編者が加えた注で疑問の残るもの。

ママ 文字に疑問はないが意味の通じ難いもの。

一、地図中の▼は木簡の出土地を示す。

位下財掠人安万呂
行夜使仍注状故移

武藏國男衾郡餘戸里大贄鼓一斗天平十八年十一月
祈

武藏國男衾郡餘戸里大贄鼓一斗天平十八年十一月

請飯 卷去之 全人十七人
前却之 在依例所請如件
史生一人

× 位下財掠人安万呂
行夜使仍注状故移

「 泉進上材十二條中又八□□ ×
桁一□□ ×

「 < 武藏國男衾郡餘戸里大贄鼓一斗天平十八年十一月

「 番長二人 舍人十七人
請飯藏部一人 右依例所請如件
史生一人

第2図 木簡積文の表現法